

団塊世代の消費動向調査結果（平成 19 年度消費動向調査 概要版）

団塊世代の 59%は定年後も同じ会社での就業を希望
仕事と趣味、消費と貯蓄のバランスを重視

富山商工会議所

第二次世界大戦後の 1947（昭和 22）年から 49（同 24）年の 3 年間の出生数は約 800 万人に上り、団塊の世代と言われる。この内約 500 万人が 2007 年から一斉に定年退職期を迎えると推定され、労働力人口の急激な減少、企業内での技能継承、地域社会のあり方など社会的な影響があると同時に、総額 30 兆円とも言われる退職金の行方やその後の消費行動の変化など様々な点で注目を集めている。

本調査は、今後の社会動向、消費者支出に大きな影響を与えるであろう団塊の世代を対象に、その消費活動、今後の生き方への考え方とともに富山市内や金沢市での消費の現状を探ることを目的に実施した。

＜調査結果の概要＞

- 58.6%は定年後も同じ会社で働きたいと希望している。ただし、うち約半分は仕事だけでなく趣味とのバランスも考え、時間的にゆとりを持って働きたいとしている。また、考えている収入源としては、年金、自身の給与、預貯金の取り崩しなどが主であった。
- 昨年 9 月オープンした総曲輪フェリオの影響では 24.9%が富山市中心市街地へ行く頻度が上がったと回答。金沢へは 70.8%が最近 1 年間全く行っておらず、富山市内や自宅や職場の近所で買い物を済ます傾向が強い。

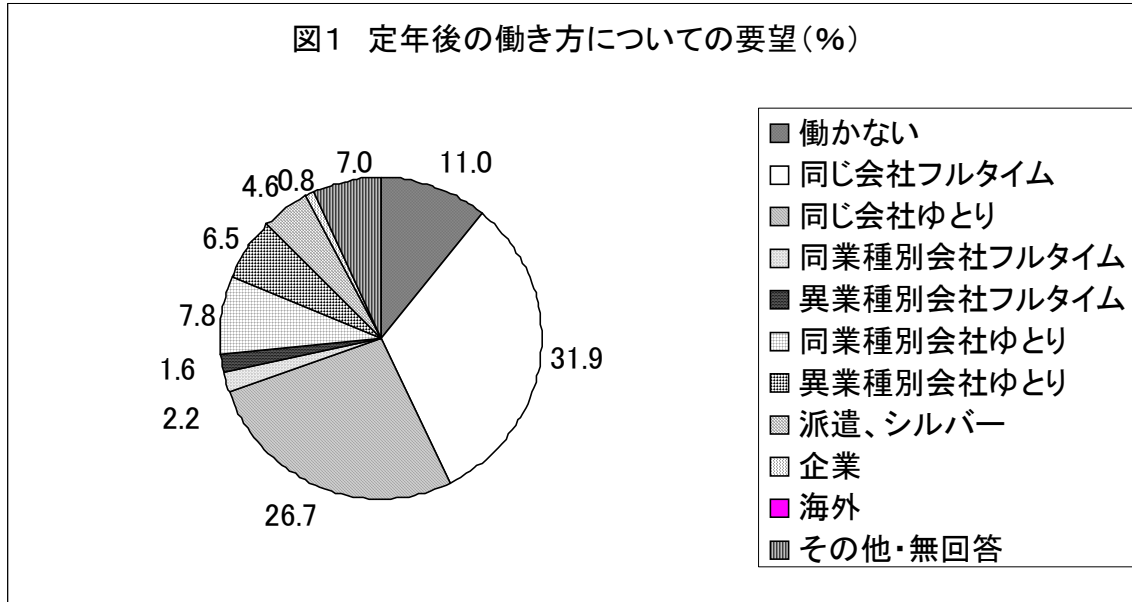
調査実施要領

- ①調査実施時期 平成 20 年 1 月 18 日～2 月 11 日
- ②調査対象 当所の会員事業所及び主要官庁（全 124 事業所）に勤める団塊世代及びそれに準ずる従業員（職員）。
- ③調査方法 調査票を郵送し、郵送で回収した
- ④有効回答数 回答事業所 80 事業所(回答率 64.5%)、有効回答数 630 件

調査結果

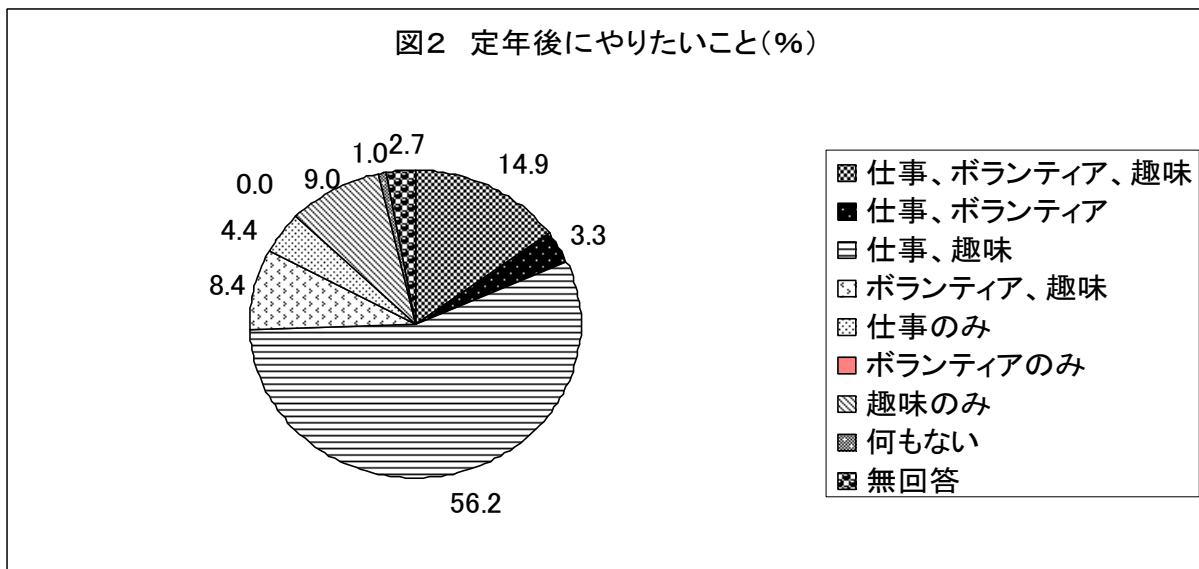
- 1. 定年後への思い
 - (1) 定年後の働き方

定年後にどのような働き方（所属する会社、働く時間など）を希望するかを尋ねたのが図1である。これによると『同じ会社でフルタイム働く』が31.9%で最も多く、『同じ会社で時間にゆとりをもって働く』が26.7%でこれに続き、合わせて約6割が定年後も同じ会社での勤務を希望している。『働かない』が11.0%あったものの、異業種での勤務は8.1%、起業希望も0.8%と少なく、慣れた環境・職種での継続勤務を望む声が大半だった。



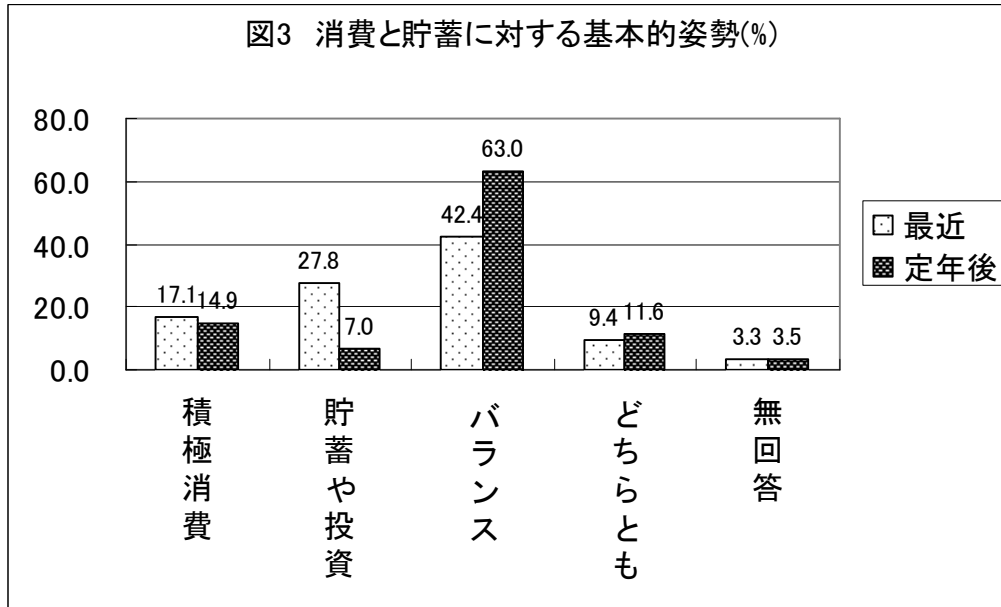
(2)定年後にやりたいこと

定年後にやりたいと考えていることについて、「仕事」、「趣味」、「ボランティア」の3つに大きく分けて、それらの組み合わせを尋ねたのが図2である。『仕事と趣味』が56.2%で最も多く、次いで『仕事、趣味、ボランティア』が14.9%であった。『趣味のみ』『仕事のみ』はそれぞれ9.0%、4.4%に止まった。仕事と趣味を軸にバランスのとれた生活を望んでいることが垣間見える。



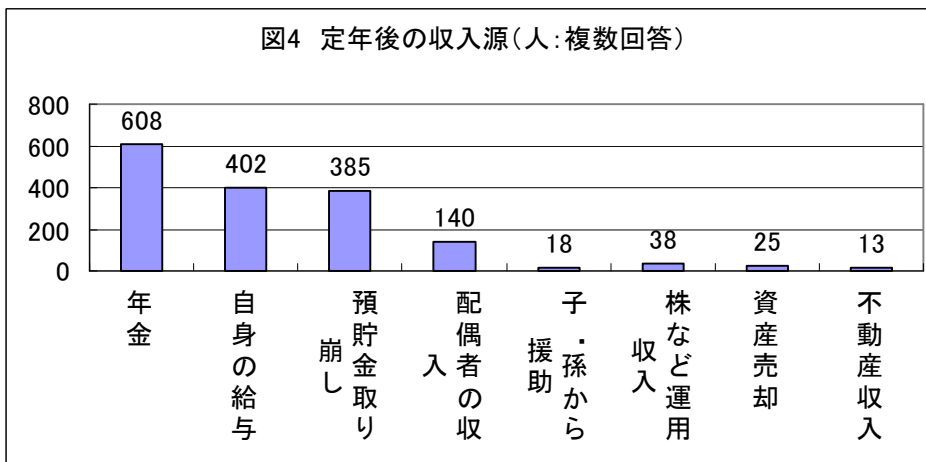
(3)消費と貯蓄に対する基本的姿勢

消費と貯蓄・投資についてどのように考えるかについて、現在と定年後に分けて聞いたのが図3である。『消費と貯蓄のバランスをとる』とする回答が現在 42.4%、定年後 63.0%と共に最多であった。『貯蓄・投資重視』は、現在の 27.8%から定年後は 7.0%と 20.8 ポイント減少している。



(4)定年後の収入源

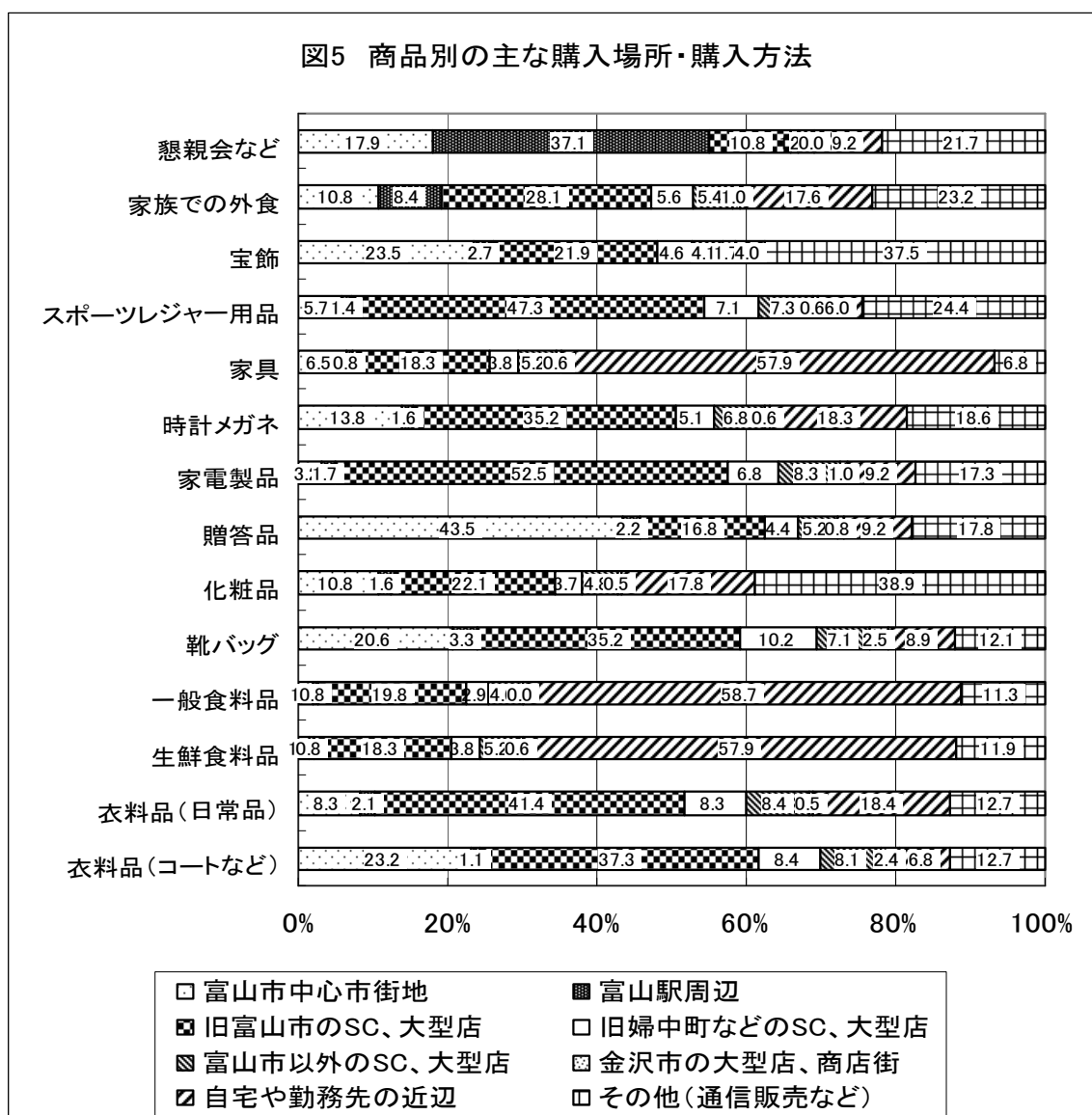
定年後の収入源として考える項目を3つまであげてもらった結果が図4である。やはり『年金』が一番多く 608名と 96.5%があげている。これに続くのが『自分の給与』402名『預貯金の取り崩し』385名、『配偶者の給与』140名などとなっており、『株などの運用収入』、『不動産収入』はそれぞれ 38名と 13名と少数派であった。



2. 団塊世代の消費行動

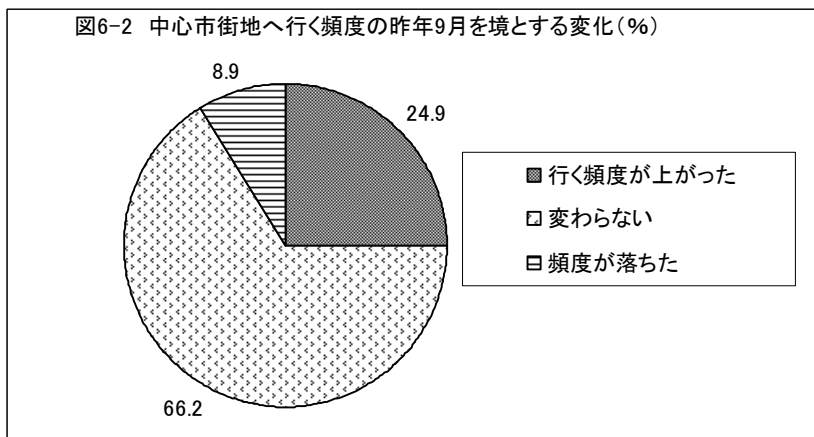
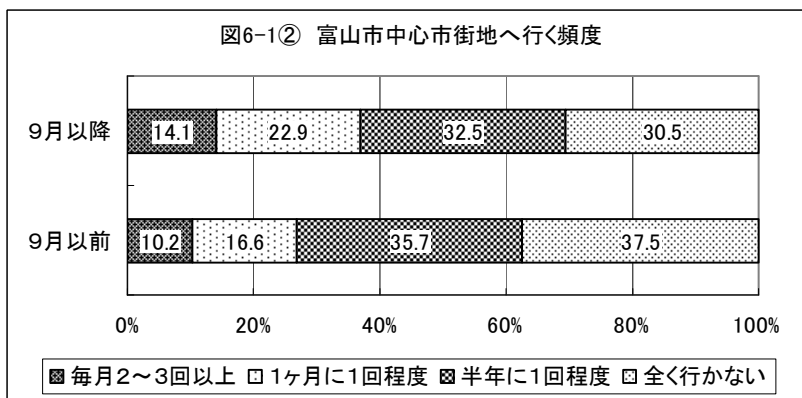
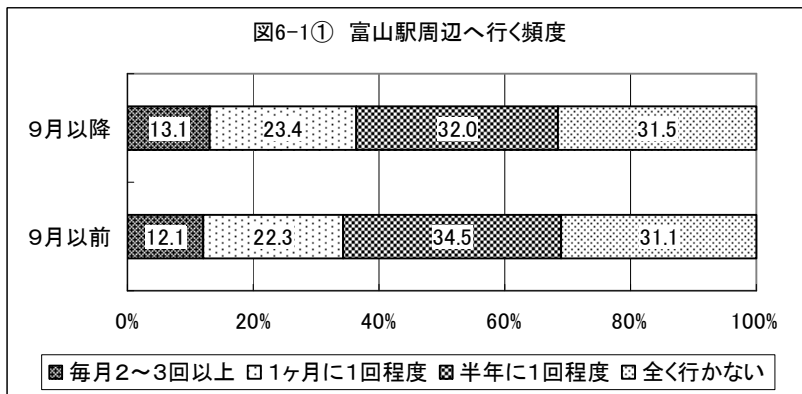
(1)商品別購入場所

商品別に、最もよく利用する小売店の場所または購入方法について尋ねたものが図5である。「食料品（生鮮、一般とも）」、「家具」では『自宅や勤務先の近辺』が過半数を占めた。「衣料品（コートなど、日用品とも）」、「靴バッグ」、「家電製品」、「時計メガネ」、「家族での外食」は『旧富山市のショッピングセンターや大型店』が最も多かった。『富山市中心市街地』が一番多かったのは「贈答品」、「宝飾・アクセサリー」で、特に「贈答品」は43.5%に達した。「職場・知人等での懇親会」では『富山駅周辺』が37.1%で最多であった。



(2) 富山市中心街と駅周辺へ行く頻度と総曲輪フェリオ開店の影響

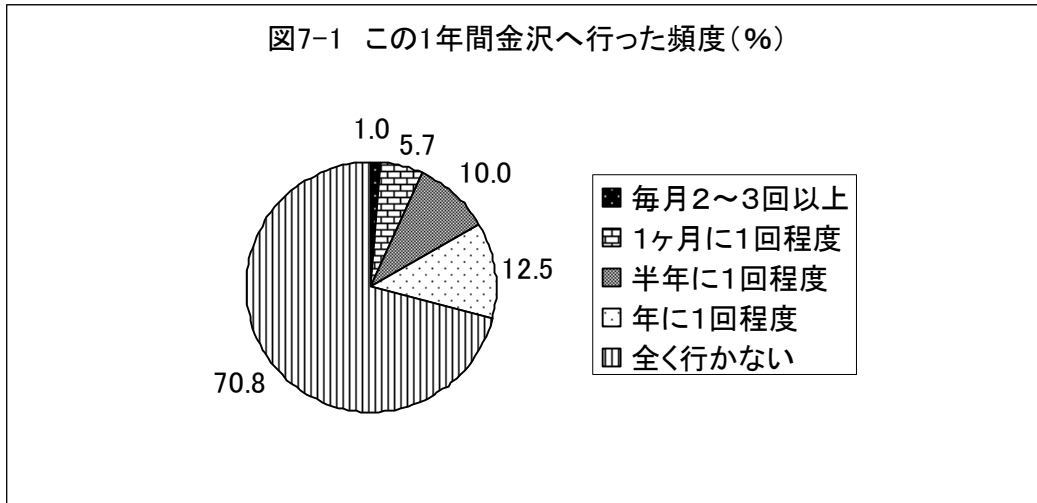
通勤以外で富山市中心街と富山駅周辺を訪れる頻度を、昨年9月総曲輪フェリオのオープン前後で尋ねたのが図6-1である。駅周辺では、9月の前後とも『半年に1回程度』が最も多く、『全く行かない』がこれにつき、9月の前後であまり差は見られない。これに対して、中心市街地では9月以前では『全く行かない』が37.5%で最多だったが、9月以降は『1ヶ月に1回程度』、『毎月2～3回以上』がそれぞれ6.3、3.9ポイントずつ増えた一方、『全く行かない』は7.0ポイント減少した。この変化をまとめたのが図6-2であり、4人に1人が中心市街地へ行く頻度が上がったとしている。



(3)金沢での消費行動について

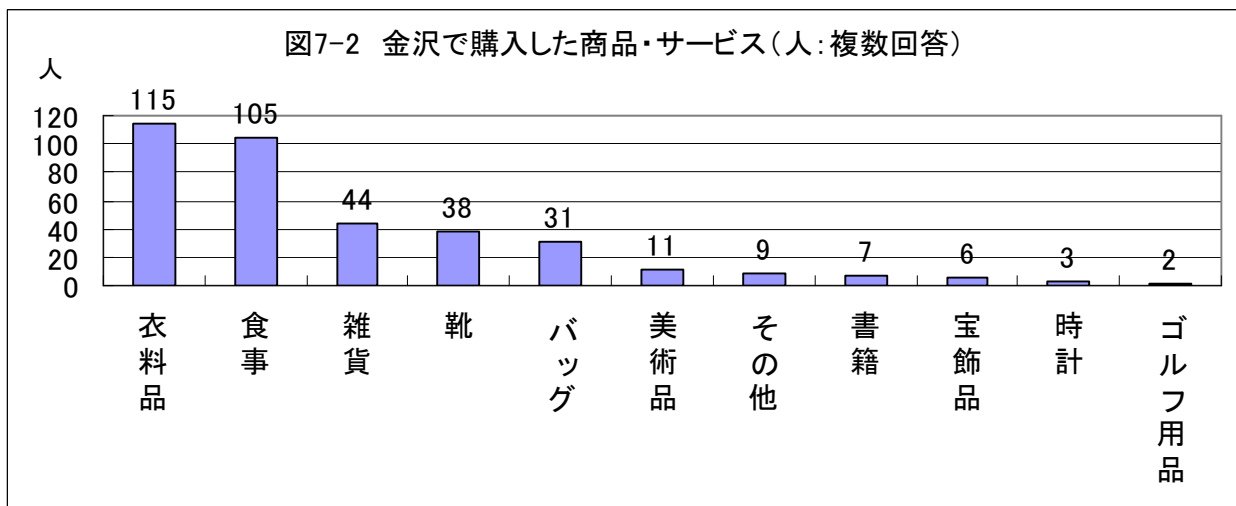
a) 金沢へ行く頻度

最近1年間で買い物を目的として金沢市（中心街・駅周辺）へどの程度の頻度で出かけたかを尋ねたのが図7-1である。これによると約7割が『全く行っていない』と回答。『年に1回程度』も12.5%であり、年に2回以上出かけたのは16.7%に止まる。



b) 金沢で購入した主な商品・サービス

金沢で購入した主な商品・サービスを複数回答（3つまで）で尋ねたのが、図7-2である。これによると多いのは『衣料品』115人（64.6%）、『食事』105人（59.0%）であり、『靴』、『バッグ』などが次いでいる。（カッコ内は a）で『全く行かない』、『無回答』以外の回答をした178名を100%とした割合）



以上